

## 2017-2020 の ISSFルールの変更

### ファイナルのルール変更

**10mと50mの単一姿勢種目:**それぞれのファイナルの開始時にある2回の3発シリーズは射撃時間250秒(50mライフル伏射では150秒)の5発のシリーズに変更される。これらのファイナルは24発で構成されることになる。

**25mピストル女子:**ファイナルは、たいへんうまくいっている25mラピッドファイアピストル男子のファイナルによく似た、エリミネーションが進行するファイナルへ変更される。新しい形では、8名のファイナリストが5発シリーズを4回撃ち、4回目を撃ち終わった時に8位の選手が脱落する。エリミネーションは、第10シリーズを撃ち終わった後に金メダリストと銀メダリストが決まるまで続けられる。

### 他のルール変更

**結果・計時・得点(RTS):**射撃用語における「審査」を、他のオリンピック競技と用語をそろえるために、これらの過程を示す用語「結果・計時・得点」に変える。

**世界記録/本選記録:**ファイナルのある種目においてはファイナルの得点を「世界記録」として認める。オリンピック種目の本選における得点記録は「本選記録」として認める。

**紙標的ルール:**特に紙標的に関するすべてのルールはGTRの本体から外され、別添の「紙標的採点に関するルール」としてまとめられる。このことにより審判が間違った採点ルールを適用してしまう原因となる混乱を無くすことになる。

**ペーパーレス(サステイナブル)競技会:**組織委員会は、ワイヤレスインターネット接続が射撃会場で普通に利用でき、役員、コーチ、選手が射座割表、成績表や告示などをスマートフォンなどで見ることができるならば、紙を使わず、電子媒体でこれらの書類を配布、提供する方法を選択することができる。

**失格:**選手が試合中(本選またはファイナル)に失格となった場合、その選手のその種目の得点は全て削除される。

**装填の定義:**新しいルールでは「銃が装填されたとするのは弾や弾の入った弾倉が銃に接触したとき」と明確にされた。装填は「ロード」の号令の後にだけ行うことができる。

**ファイナルの演出と音楽:**ファイナルにおける音楽と実況解説は現在も要求されている。できることなら、音楽は予選や本選においても流すべきである。

**音声強調聴覚保護装置:**選手は当然ながら音声減衰聴覚保護装置を装着することができるが、射座内においては音声強調聴覚保護装置を装着することはできない。競技役員は音声強調聴覚保護装置を装着することが許される。

**携帯電話:**選手は自身の射座内において、携帯電話、手持ち式または腕時計型の通信装置を使うことはできな

い。

**コーチング:**2013年ルールではショットガン種目では言葉によらないコーチングが許された。新しいルールでは全ての種目において言葉によらないコーチングが許される。

**目かくし板:**ライフル、ピストルとショットガンの選手は1枚の正面の目かくし板(最大幅30mm)が使用できる。側面の目かくし板(最大深さ60mm)はショットガンの選手だけに着用が許される。ライフル、ピストルの選手は側面の目かくし板の着用はできなくなる。

**ライフルのサイトにおける視力矯正用レンズ:**ライフルの選手はそのリアサイトに1枚の視力矯正レンズを入れたり、装着することが許される。

**エアライフルの規格:**バットプレートの下端に関する現在の制限(銃口中心から220mm下方まで)は撤廃される。バットプレートとグリップの間は銃口中心から下方140mmを超える部分があってはならない。フォアエンドの最大の深さは90mmから120mmへ増やされた。

**エアライフルのバットプレート:**複数部品から成るバットプレートの出現により、バットプレートのオフセットの測定方法を変えなければならなくなった。測定はバットプレートの外側の端から行われる。バットプレートのどの部分もストックの中心線から30mmを超えてはならない。

**50mライフルの規格:**バットプレートとグリップの間は銃口中心から下方140mmを超える部分があってはならない。どのような装置もストックから下方や外側に突出することは禁止される。

**ライフルウェイト:**銃身を除くライフルの各部に取り付けるウェイトは「ストックの基本形状の内側になければならない」(ウェイトはストックから突出することはできない)。

**ライフルの服装のルール:**ライフルの服装のルールの変更はなかった。しかし、競技後検査における硬さと厚さの許容誤差の無い厳しさは継続される。

**ライフルの2脚:**ライフルの2脚は射撃中はライフルから外すこと。

**ピストルのサイト:**光ファイバーや反射する色のサイトは禁止される。

**ピストルサポートスタンド:**ピストル選手は、練習、試合(本選、ファイナル)中に、高さ調整のできる「ピストルサポートスタンド」を台やテーブルの上に置いて使うことができるが、その全高は床面から1.00mを超えてはならない。